

ICFに関するこれまでの取り組み

1980年 ICIDH*（国際障害分類）をWHOが発表

- ・ICDの補助分類として作成

*International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps

2001年 ICF*（国際生活機能分類）をWHOが採択

- ・ICIDH改訂版としてWHO総会にて採択

- ・「環境因子」が新たに追加

*International Classification of Functioning, Disability and Health

2002年 ICF日本語版発行

2006年 「ICF専門委員会」を社会保障審議会統計分科会の下に設置

- ・2019年3月迄に計19回開催

2007年 「活用と参加の基準（暫定案）」を公表

- ・ICF専門委員会において、「活動」及び「参加」の分野に関する評価点導入の手引きを作成

国内の普及推進に向けた実質的な議論がスタート

2010年 「ICFシンポジウム」を開催

- ・2018年1月迄に、ほぼ毎年度実施（計7回）

2018年 「ICD-11」*が公表され、ICFに基づく項目が一部追加
（6月）

- ・ICFの概念に基づく「第V章生活機能評価に関する補助セクション」が追加

*International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, Eleventh Revision

（11月） WHOとの合同フォーラムを開催

- ・WHO担当官2名を東京に招聘し、ICD-11の公表を記念する基調講演とあわせて、ICFとの一体的活用を目的とした公開講座を開催

2019年 第19回ICF専門委員会において、ICFの一層の普及を目的とした本ワーキンググループの設置を決定
（3月）

（5月） 「ICD-11」をWHOが採択